

# いすみ市第2次総合計画 策定のためのアンケート調査 集計結果の概要

いすみ市では、平成29年2月から3月にかけて、「いすみ市第2次総合計画」策定のためのアンケート調査を実施し、集計結果がまとまりましたのでご報告いたします。

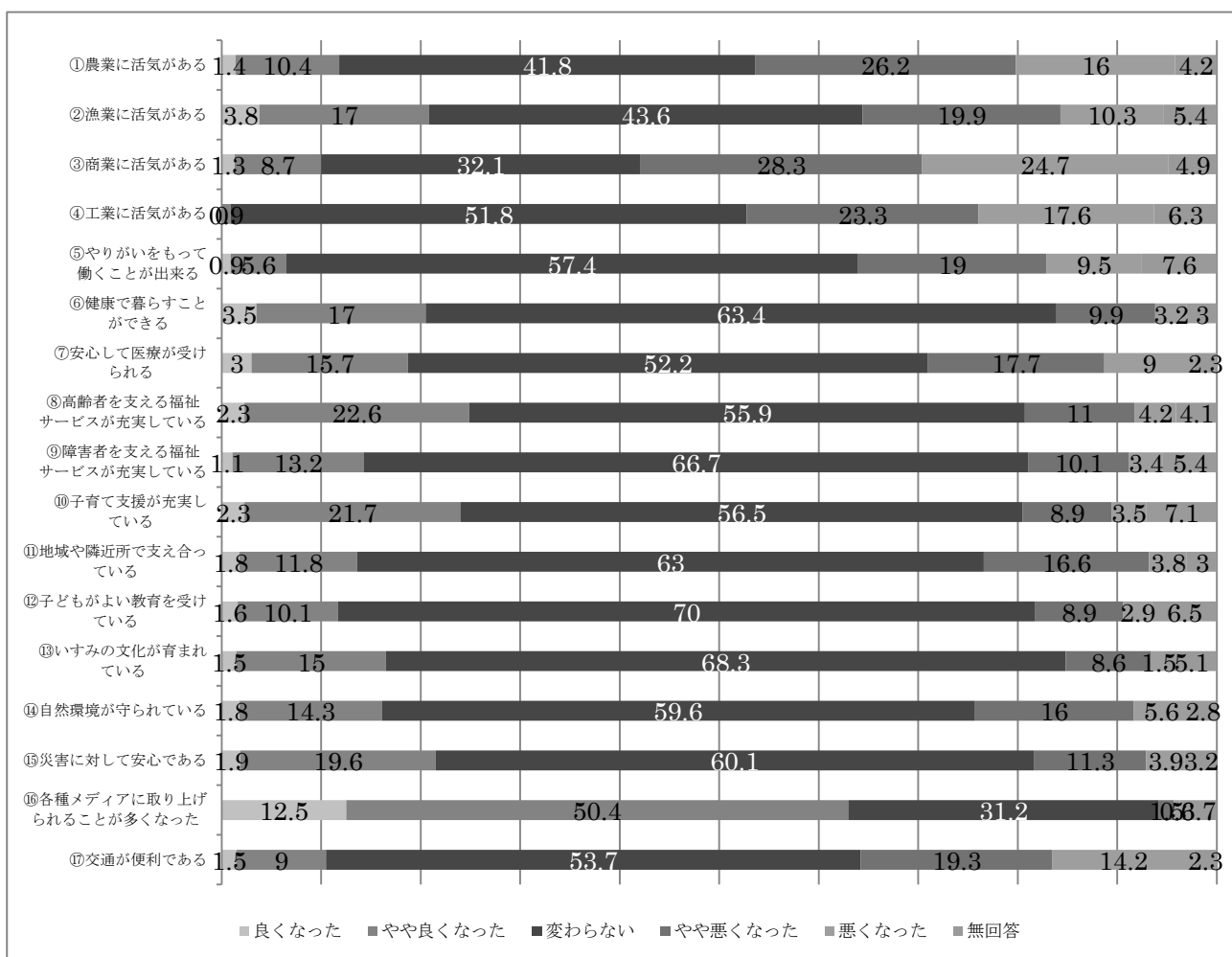
ご協力いただきました市民の皆さま、ありがとうございました。

## ■実施概要■

- 調査対象：市内にお住まいの1,500名の方（無作為抽出）
- 調査期間：平成29年2月6日～平成29年3月10日
- 調査方法：郵送配布・回収
- 配布・回収：配布数1,500名 回収数789名 回収率52.6%

## (1) いすみ市の状況について

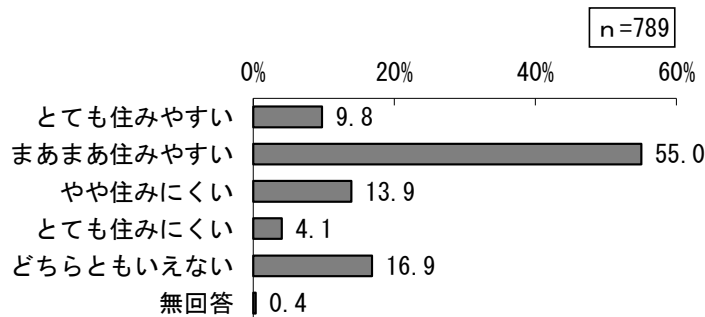
最近の市の状況について、「各種メディアに取り上げられることが多くなった」で「やや良くなった」が50.4%で最も高く、「良くなった」(12.5%)と合わせると6割以上の方が『良くなった』と感じています。逆に「商業に活気がある」では、5割以上の方が『悪くなった』と回答しているほか、産業関連の項目で『悪くなった』の割合が他の項目と比べて高くなっています



## (2) いすみ市での暮らしについて

### ① いすみ市は暮らしやすいまちか

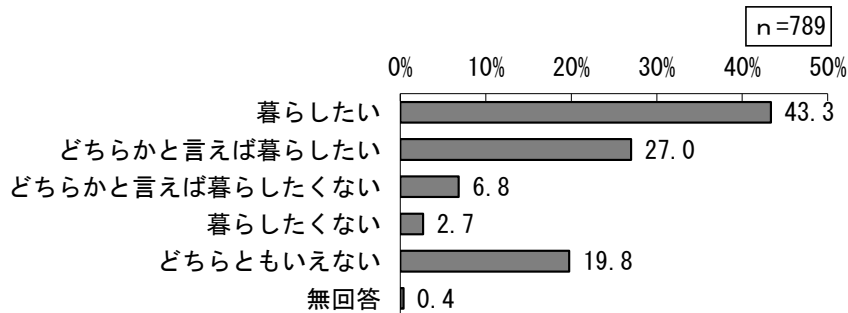
暮らしやすさについて、「まあまあ住みやすい」が最も高く肯定的な意見が否定的な意見を大きく上回っています。



### ② これからもいすみ市で暮らしたいと思いますか

「暮らしたい」が最も高く、「どちらかと言えば暮らしたい」と合わせると約7割の人が『暮らしたい』と回答しています。

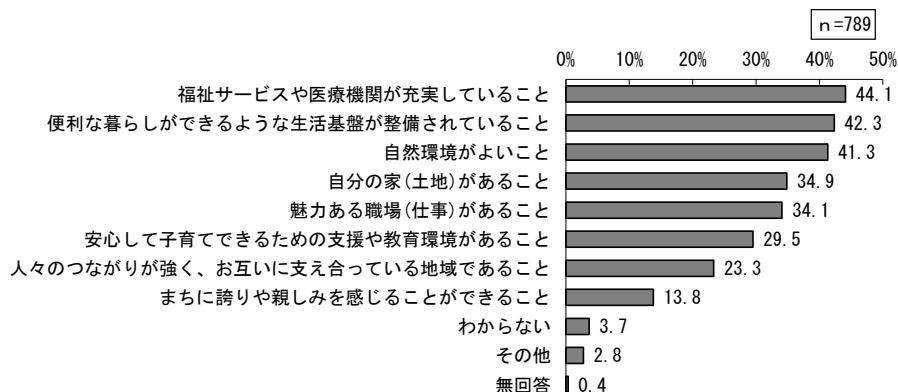
暮らしやすさと同様、「どちらともいえない」が2割近くとなっています。



### ③ これからもずっと住み続けたいと思うまちの条件はなんだと思いますか

「福祉サービスや医療機関が充実していること」が最も高く、次いで「便利な暮らしができるような生活基盤が整備されていること」、「自然環境がよいこと」と続いています。

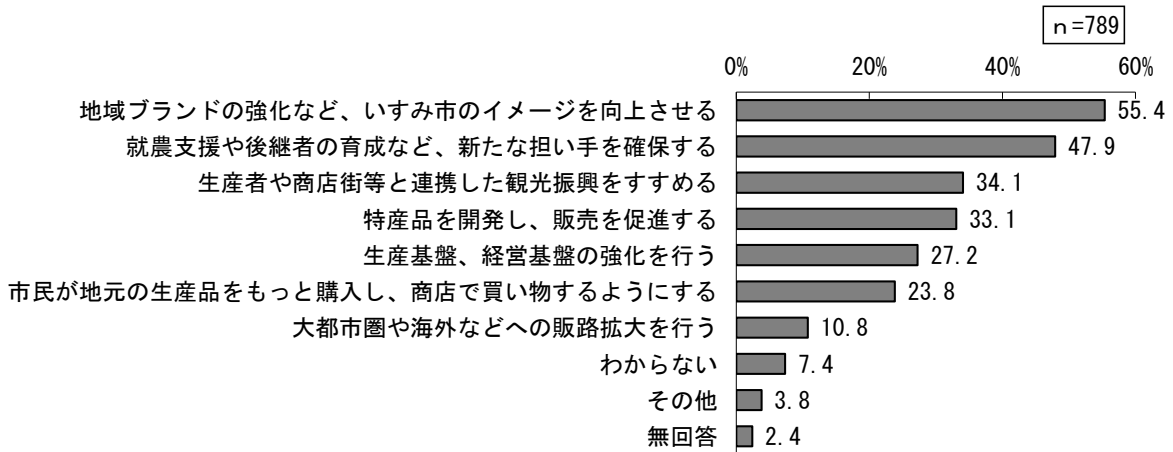
住み続けたいまちづくりのためには、評価の高い福祉・医療分野に加え生活基盤の整備をしつつも自然環境を維持して行くことが必要と考えられています。



### (3) これからのまちづくりについて

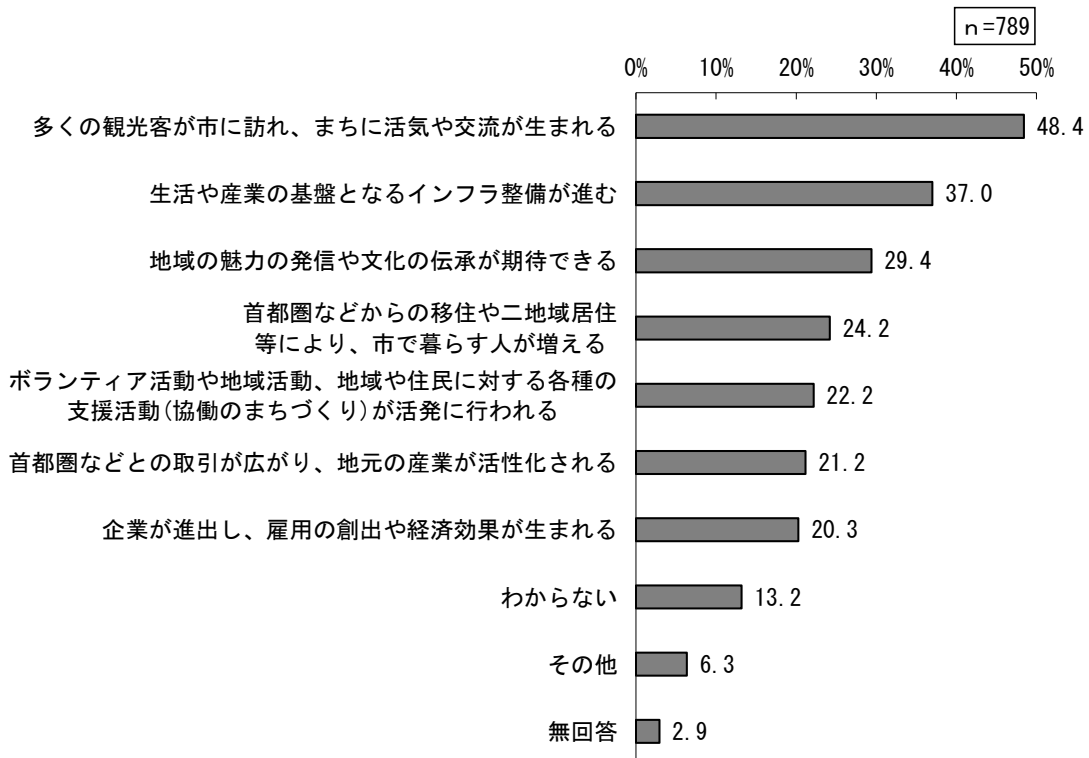
#### ①いすみ市の地場産業の活性化に向けて

いすみ市の地場産業の活性化のために重要な取組みについて、「地域ブランドの強化など、いすみ市のイメージを向上させる」が最も高くなっています。また、「就農支援や後継者の育成など、新たな担い手を確保する」についても5割近くに上っています。



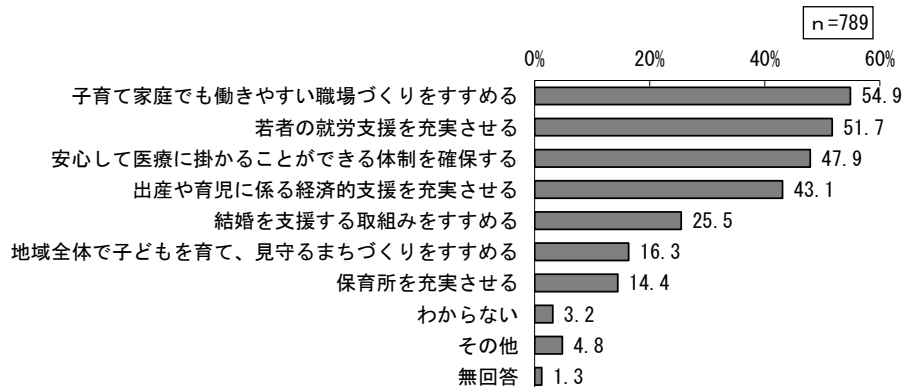
#### ②圏央道が開通し、2020東京オリンピック・サーフィン開催地として期待すること

「多くの観光客が市に訪れ、まちに活気や交流が生まれる」が最も多く、次いで「生活や産業の基盤となるインフラ整備が進む」、「地域の魅力の発信や文化の伝承が期待できる」生活基盤の整備や、オリンピック開催を期にレガシーを作ることが期待されています。



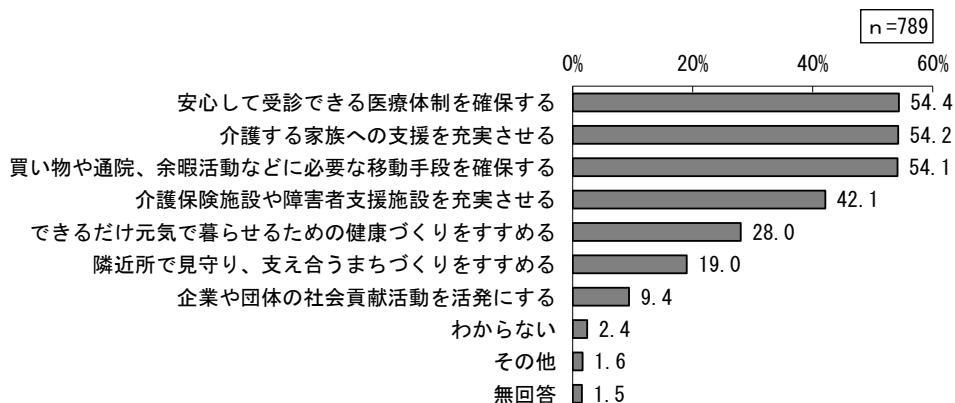
### ③少子化対策、子育て支援で重要な取組みについて

「子育て家庭でも働きやすい職場づくりをすすめる」が最も高く、次いで「若者の就労支援を充実させる」、「安心して医療に掛かることができる体制を確保する」と続いています。



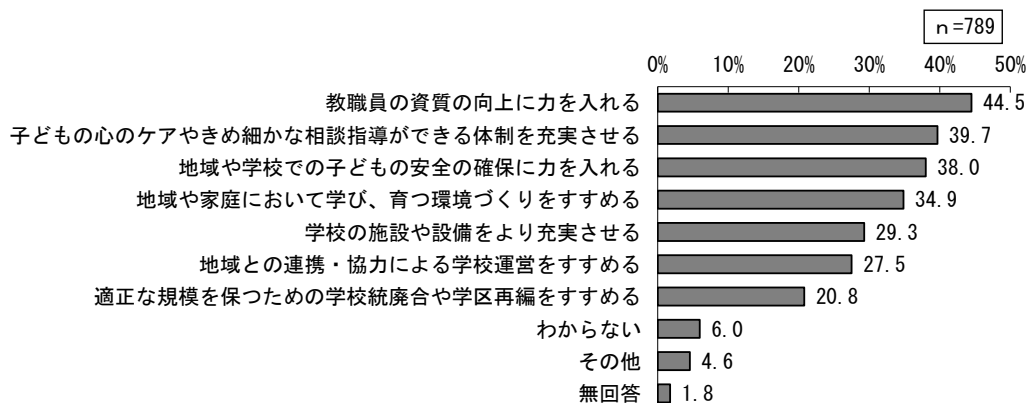
### ④高齢者や障害者が安心して暮らしていく取組みについて

「安心して受診できる医療体制を確保する」が最も高く、ついで「介護する家族への支援を充実させる」、「買い物や通院、余暇活動などに必要な移動手段を確保する」と続いております。高齢化による医療への不安や介護の負担増、交通弱者の増加等がうかがえます。



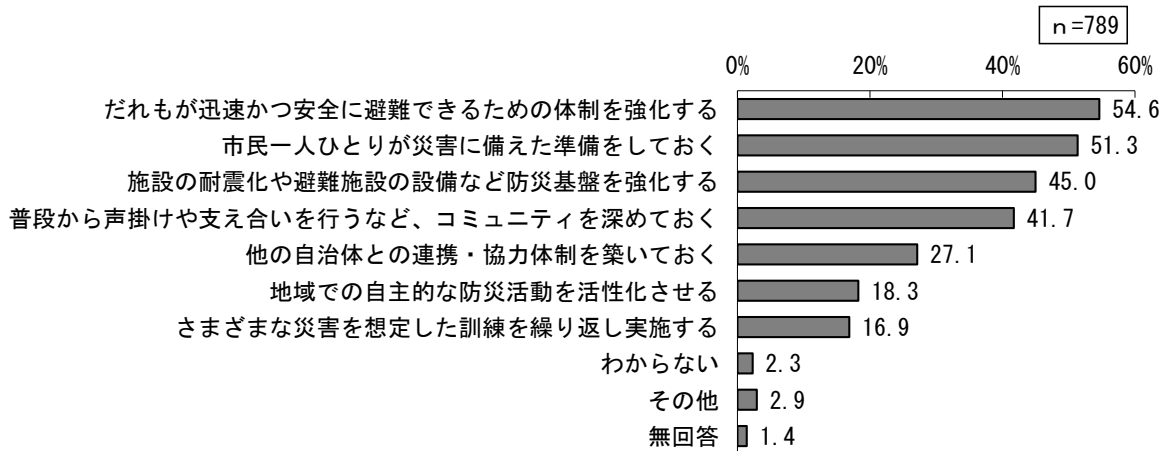
### ⑤子どもたちの健やかな成長のための教育環境づくりについて、

「教職員の資質の向上に力を入れる」や「子どもの心のケアやきめ細かな相談指導ができる体制を充実させる」が必要との回答が多く、学校における教育指導の強化と子ども達に寄り添う体制作りが求められています。



### ⑥地震や津波などの災害に強いまちになるために推進すべき取組みについて

熊本地震などの災害により「だれもが迅速かつ安全に避難できるための体制を強化する」、「市民一人ひとりが災害に備えた準備をしておく」が5割以上と高く、「災害への備え」や「声掛け・コミュニティ」など自助・共助の重要性も認識されています。



⑦協働のまちづくりについて

地域活動やまちづくりの取組みについて、ここ5年間で参加した活動では、「市が実施するイベントへの参画」と回答した人が多く、「町内会・自治会が行う活動への参画」や「まちの活性化につなげる活動」なども上位に来ています。

一方、「支援が必要な人を支援する」、「安全を守るための活動」などは、参加経験者数が少ないものの、今後の参加意向を示す人の割合が高くなっており自助共助の意識の拡大がみられます。

また、「市政に対する意見の提出」についても今後の参加への関心が高くなっており機会の拡充と参加しやすい環境づくりが必要です。

